
ゆきぞら

羅々美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゆきぞら

【Nコード】

N2948D

【作者名】

羅々美

【あらすじ】

ある日、2人は出会った。寒い冬の日のことであった。……。
この出会いは、よかったことなのだろうか？この2人の恋のお話。

ブログ（前書き）

「ゆきぞら」を頑張って、更新していくのでよろしくお願いします！
表現が下手かもしれませんが、最後まで見てってください。

ブローグ

やわらかな、青白いゆきは降り積もってゆく。

なんのにおいもしないゆき。

寒い、ふゆに降り積もるゆき。

けれど、あたたかい。

とおい、とおい、そらから振ってくるゆき。

プロローグ（後書き）

見てくださって、ありがとうございます。

こんな、下手な小説を見てくれて、とても感謝します！
では、次もよろしく願います。

第一話＊かれ＊

青白いゆきみちの上を欠伸しながらのんびりと歩く。

手も、足も、冷たいのはこの青白いゆきのせいもあるが、このワンピース姿のせいでもあるだろう。

丁度、公園にさしかかった。

その公園には、ブランコも滑り台もあり、さむいのに関わらず、子供達が戯れている。

そんな子供達を見ていると、口元が緩む。

私はずっと続くゆきみちを歩いている。

目の前には、信号がある。

信号は、赤い光を放っていた。

私は、すぐ横にあったボタンへとゆっくりと、手を伸ばす。
ボタンのすぐ前で手を止める。

信号は、未だに赤い光を放っている。

信号は、もう青い光を放っている。

信号が変わり、私は前へと歩き出した。
そっと、横を見してみる。

「あつ、」

そこには、かれがいた。

かれは、私にそつと微笑んでくれた。

「ねえ、君名前は？」

甘い声で私に聞く。

息を飲んだ。

体中の寒さはどこかへきえてゆく感じがした。

「……みつきです」

風がびゅうびゅう吹き荒れる。

重い空気を割るように。

「みつきちゃんか、みつきちゃん家はどこ？」

「ありません」

「そつか、じゃあうちくる？」

かれは、わたしにてまねきしながら笑った。

子供のように、むじゃきに笑った。

私は、それに抵抗できずこくりと頷くだけだった。

信号が青い光りを放っているがたまにいろがなくなる。
もう、赤になる合図だ。

かれは、私にそつと微笑み、私の手を取り走った。

第3話＊違う＊

彼の手は温かった。

手を握られながら、冬のゆきみちを走ってゆく。

見渡す限り、クリスマス。

クリスマス一色で、ショーウィンドーにはケーキがたくさん並んでいる。

そこには、山のようなひとごみ。

幸せそうに微笑む人々だらけだった。

「ねえ、」

私は、丁度、サンタのいるまん前でかれの服の袖引っ張った。

かれは、私の手を離さずに私の目を見てくれた。

「なあに？」

「あなたの名前はなに？」

「明津」

明津の甘い声が響いた。

明津の指には、“m i k a”と彫つてある指輪がキラキラと光つていた。

胸がずきずきした。

「行こうか？」

私は頷くだけ。

明津と歩く街。

ひとりで歩く街とは違うみたい。

温かい右手。

目の前は、クリスマス一色の幸せな街並み。

横には、明津がいる。

さっきまで、とても冷たかったこのゆきみち。
でも、今は温かい。

ショーウィンドーの中にキラキラと輝く指輪を見つけた。
明津がつけているのと似ている指輪。
他の店にも、何個かおなじようなものがある。

でも、これだけは違うように見えた。

「いいな」

不意に出た言葉。

「え？ あの、指輪欲しいの？」

「……い、いらないよ」

手を交互に振る。

でも、そんな言葉とはウラハラに目は指輪に行く。

「やっぱり欲しいんじゃない……」

「いらないから」

私は、明津の手をぎゅっと握って強く引っ張った。

さっきより、温かさが感じる。
2人分の温度。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2948d/>

ゆきぞら

2010年10月11日02時55分発行